地域に愛されるスーパー〈カドイケ〉

静岡県東部では誰もが知るスーパーカドイケを展開している株式会社カドイケ。その企業理念や地域とのかかわりについて、本部取締役の酒井智さんと管理部本部長の稲葉隆利さんに話を聞いた。

丁寧さと安全を

想いを込めた品物

株式会社カドイケの企業理念は「正直な商売、安心・安全な商品を適正な価格で販売する」である。企業理念への思いについて酒井さんは「来店して頂いたお客さまにがっかりして欲しくない。そのため、月間イベントカレンダーのチラシを作っている。その日その日のお得な商品をあらかじめ知らせ、お客さまに後悔しない買い物をしていただけるよう心掛けている」と語った。またカドイケの強みについては「青果・鮮魚・精肉のような生鮮食品に特化している点だ。生鮮食品は、他の店と大きく差がつく。そのため、仕入時に社員が市場へ行って、目で見て質の良い商品を選別する。毎日、新鮮でおいしい食品をお客さまにお届けしたい」と話した。カドイケでは、お客さまのために、お得な仕組みと質の良い商品を提供する努力をしている。

お客様への想いを熱く語る酒井さん

食事を愉しく

スーパーカドイケ清水町徳倉店は、二〇〇二年に創立し、今年で十七年目。店舗に訪れるお客さまは、昔から知っている人も多く、地域の方とのつながりが強いのがカドイケの特徴だ。そのため、スーパーではあるけれども「昔の商店街」のような、親しみやすい明るい場所となっている。

酒井さんは、このような地域の方とのつながりについて「お客さまとのコミュニケーションをとることで、正確なニーズに応えることができる」と話した。

カドイケでは、地域のお客さまのニーズをしっかり把握し、旬の食材を提供し『食の愉しさ』を届けることを心掛けている。

お客さまとの交流を大切に

今、スーパーや小売店では、セルフレジの導入が次々とされている。しかし、スーパーカドイケはセルフレジを導入していない。時代に逆らってでも導入しない理由について、酒井さんは「店内にスタッフがいなければ、お客さまとの会話が生まれない。お客さまとコミュニケーションをとることで、機械ではできない些細なことに気づき、店舗をより良くできる。今のような形でこれからもやっていきたい」と語った。さらに、稲葉さんは「どんな時代でも自分が楽しく仕事をしていれば、お客さまにも伝わる。そのため、自由と楽しさを大切にし、自然体で正直に働くことを意識している」と、古き良きスタイルを貫くカドイケでの仕事の楽しさを語った。

カドイケ清水町徳倉店に訪れた日大三島新聞部

編集後記

今回二面を担当した、日本大学三島高等学校新聞部です。地域で輝く企業さまを取材させていただけたのはとても楽しかったです。

カドイケさまには地域の方々に愛される秘訣を、ウェルネスケアさまには仕事へのこだわりを教えてもらいました。

未熟な記事ではありますが、ご一読いただければ幸いです。

日大三島新聞部集合写真

常に和の心をもって ウェルネスケア

三島市を中心に介護サービスを展開する社会福祉法人、ウェルネスケアグループ。三島市沼津市に設置した特別養護老人ホーム「ウェルネス松本」や、三島市中島に開設した介護付有料老人ホーム「ウェルネスこやま」を運営する社会福祉法人。今年で開設から二十六年を迎え、今後の方々に向けて、介護職の魅力を発信し、人材不足を考える。

介護の魅力を発信

いづテラスは、十人一つのグループになり、合わせて七十人の高齢者の方々が共同生活を送っている。施設は、どこにいてもコミュニケーションのとりやすい空間となっている。

いづテラスの外観

施設長を務める本田洋美さんに仕事のやりがいについて聞くと「介護の仕事は、利用される一人ひとりの心身の状態を確認し、何を一番望んでいるのかを理解することが大切。そして、『ありがとう』『助かったよ』と言われた時にやりがいを感じる」と話した。

ウェルネスケアグループの目標は「常に和の心を持つこと」だ。統括部長の芹澤美佐子さんは「『和』という言葉にはゆったり、まったりという意味が込められている。施設を利用されている方々にとって、ここは本当の家ではないが、当たり前の日常が流れるように工夫し、自分の家にいるように感じてもらいたい」と語った。加えて「一人ひとりが感情を自然に出せる施設を目指している」と施設の目標も話した。

職員の方々とマスコットのテラスちゃんと共に

人材不足を考える

介護職は三六五日・二四時間、一分も空けられない職業のため、利用者と職員の信頼関係を構築することが大切である。そこで、介護職を目指す学生に向けて、理事長の加藤信秀さんは「メディアの影響で、介護職はネガティブなイメージが強いが、現場の職員たちは皆、やりがいを持っている。少しでも興味があるなら、介護の世界を知ってもらいたい」と語った。昨今、介護職の人手は不足している。例として、都内では、人材不足により約六〇〇〇もの部屋が空いているのに、利用することができない状態だ。そのため、ウェルネスケアでは、ベトナムからの実習生を受け入れるなどして、介護職に就く人材を増やす手助けもしている。この介護職の人材不足は、社会全体で考えるべき課題と言える。

介護職を語る加藤理事長と芹澤統括部長